

令和4年度 県立総和工業高等学校自己評価表

目指す学校像	1 校訓である「智和憤」と「ものづくりは人づくり」を教育活動の基盤とし、心身ともに健康で豊かな人間性を育てるとともに、確かな技術力と企業が求める「社会人基礎力」を身につけた優秀な工業技術者を育成する学校。 2 「圏央道新産業クラスターゾーン」を代表する工業高校として、地域の発展に貢献できる人材を育成する学校。 3 全教職員が資質向上に努め、魅力ある教育活動を推進し、生徒・保護者・地域社会から確かな信頼を寄せられる学校。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・地域企業と連携した出前授業の実施や1、2年次の各学科実習や3年次の課題研究など、ものづくり教育を中心とした教育活動を展開している。コロナ禍以前は地元イベントや小学校での出前授業で生徒の発表の機会などがあり、生徒自身の能力の向上に寄与していたが、現在その機会は失われている。コロナ禍においても可能な、地域社会との連携のあり方を模索し、生徒が活躍できる機会を増加させることが課題である。 ・基礎学力不足や学習への取り組み姿勢に問題を抱えている生徒に対して、ICTの活用や教科毎の適切な学習支援を実施することにより、学習意欲の向上が見られた。さらに生徒の興味関心が高まる授業改善に努め、学習に対する意欲の向上と基礎学力の向上を図る。 ・規範意識が低く、基本的生活習慣の身につけていない生徒がみられる。問題行動の未然防止や早期発見に努めると共に、生徒へのはたらきかけを強化し、交通安全と生活上のマナーの向上を図る。 ・令和3年度の進路状況は就職者が約70%を占め内定率は100%であった。大学進学者は約15%となった。引き続きインターンシップ企業実習等のキャリア教育・進学支援を充実させ、進路意識の育成を図り、進路決定率100%を継続する。 ・資格指導の校内体制を整え、講習会等の充実を図り、ジュニアマイスター取得者をはじめ資格取得の合格者が増加した。 ・部活動加入率が40%程度に留まっている。職員の勤務形態、働き方改革をふまえ、部活動のあり方について検討する。 	学習意欲を高める授業・実習の指導改善	①授業規律の確立と基礎的・基本的な内容を重視し、確かな学力の定着を図る。 ②観点別評価を活かした学習活動に努め、授業・実習の指導改善を図り、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。 ③ものづくり教育を推進させ、専門的な知識や技術の習得により、資格取得につなげる。	B
	道徳教育の推進と基本的生活習慣の確立	④規範意識の涵養を図り、基本的生活習慣を身につけさせる。 ⑤道徳教育やいじめ防止対策を推進し、問題行動等の未然防止を図る。 ⑥ルールやマナーの向上を図り交通事故防止に努める。	B
	健康や体力を育み学校全体の活性化	⑦ホームルーム活動や部活動等を充実させ、生徒の主体性を育む。 ⑧様々な学校行事における体験的活動等を通して、生徒の協調性、協働性を育成し、学校全体の活性化を図る。	B
	社会の変化に対応した生きる力の育成	⑨キャリア教育を推進し、勤労観・職業観の育成を図り、進路希望の実現を目指す。 ⑩企業体験学習や進学支援を充実させ、生徒の主体的な進路選択を推進する。	B
	P T A活動の活性化と地域社会との連携	⑪P T A活動の活性化のため、保護者との連携と行事の工夫改善を推進する。 ⑫地域イベントへの協力、参加や出前授業などを展開し、本校の特色を生かした、地域社会との連携を推進する。	B
	働き方改革の推進	⑬業務の分担の見直しと内容の適正化、効率化により、働き方改革を推進する。	B

三つの方針	具体的目標	評価	評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○長期的目標 ・校訓である「智和慎」と「ものづくりは人づくり」を教育活動の基盤とし、心身ともに健康で豊かな人間性を育てるとともに、確かな技術力と企業が求める「社会人基礎力」を身につけた優秀な工業技術者を育成する。 ・「圏央道新産業クラスターゾーン」を代表する工業高校として、地域の発展に貢献できる人財を育成する。 ・全教職員が資質向上に努め、魅力ある教育活動を推進し、生徒・保護者・地域社会から確かな信頼を獲得する。	B	B 本校で獲得を目指す資質や能力の評価指標の設定と達成へ向け具体的な取り組みの実施
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	○中期的目標 ・多様な学習ニーズに応じた新たな教育課程の編成による、就職から大学進学までの進路希望の実現 ・生徒個々の進路希望を確実に実現するために、系統的・組織的なキャリア教育を推進し、企業や大学との連携を図り、望ましい勤労観や職業観を養うとともに、進路意識の高揚を目指し社会の変化やグローバル社会に対応できる力をもつ生徒の育成	B	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○短期的目標 ・基礎基本を重視して「確かな学力」、「生きて働く知識・技能」を確実に習得し、「工業技術者として必要な思考力・判断力・表現力」を身につける努力をする生徒 ・工業の基礎的・実践的技術を習得し、各種資格取得やものづくりに真摯に取り組む生徒 ・基本的生活習慣を確立させ、自己の進路実現を目指し、日々努力する生徒	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教務部	新たな学習環境の整備を図る。	対面授業に替わる授業形態を研究し、実践する。 ①②③	C	C 授業・評価・学校運営において各学年・各教科・各科を主導できる体制づくり。 【取組の方向性】 各部署との調整、業務の精選と分担を明確にし、各部署が能力を発揮できるような教務部をめざす
		タブレット、電子黒板を活用する授業に関して校内研修を行う。 ①②③	C	
		リモート研修等が可能な環境の整備に努める。 ①③	C	
	新学習指導要領に基づく基礎学力の向上を図る。	学力向上推進総合事業の中心的役割を果たすため企画立案を積極的に行う。 ①②③	C	
		新学習指導要領に則った評価基準を定める。 ②	A	
定期考査・基礎力診断テストを効果的に活用し基礎学力の向上を図る。 ①②③	B			
情報管理部	教務の連携及び教員 ICT 教育	ICT 等の活用で教務との連携を図るとともに、教員の ICT 技術の向上を目指す。 ②③	B	B ・クラスルーム等の使用率は昨年度より向上しているが、ICT 技術の技術向上は継続が必要。 【取組の方向性】 ・ICT 技術向上と個人情報の保護等が次年度へ向けての目標
	端末貸与・購入補助の管理	端末貸与・購入費補助に関する事務処理のフローチャート作成および台帳管理の徹底。 ⑬	A	
	教員及び生徒のネチケット	著作権等の個人の権利を守り、情報漏洩や誹謗中傷等をさせない指導教育の徹底。 ⑤⑥	B	
	ICT を利用した業務改善	クラスルームなどの茨城県教育情報ネットワークを活用して教員間の連携を図ることによって、ペーパーレス化と情報共有を円滑にする。 ⑬	A	
生徒指導部	学生生活の根本である「授業規律」を確立することにより、自己の規範意識、基本的生活習慣や社会のルールを見直すことができる生徒を育成する。	朝の立哨指導を実施し、身だしなみの徹底を図る。遅刻届を導入し、遅刻者の減少を推進する。また、昼休みの校内巡視および毎月の頭髪服装検査等を全職員共通理解のもとで実施する。問題行動の未然防止や早期発見・早期対応に努める。 ④⑤⑥	A	B ・生徒の問題行動やトラブルの対応方法について、職員へ徹底する仕組みづくりが必要。教員の指導差があることで、学校に対しての信頼が低下し、授業や学校生活に影響を及ぼす。研修や、仕組化にて改善をはかる。 ・部内での仕事の割り振りを行う必要がある。他の分掌に比較して、部員の活動が少なく、活躍できていない
		道徳の授業や他の関係分掌との連携行事により、道徳的な態度や考え方を育み、社会の一員として自覚のある心身を育成する。 ④⑤	C	
		学期毎のマナーアップ週間で、生徒会によるあいさつ運動、マナーアップキャンペーン参加等を実施し、マナーの向上や地域の貢献に努める。 ④⑥	B	
		毎月の生徒情報交換会で、生徒に関する情報を共有し、保護者との密な連携を取りながら、いじめ問題、問題行動等の未然防止に努める。 ⑤⑥⑬	B	
		スマートフォンや SNS の安全利用について、生徒、保護者の意識を高めるための講演会や安全教育を推進する。 ④⑤	A	
	交通安全教育の充実とともに、交通マナーの向上、交通事故の	交通安全教室を学年毎に実施し、危険察知力を養い交通ルールの遵守と交通事故の減少に努める。 ④⑥	B	

	未然防止を図る。	学期毎に、自転車・バイク点検およびマナーアップ週間等の登下校指導により、交通安全意識の高揚を図る。 ④⑥	B	<p>職員が多い。部長以外でもできる部分については、部員に割り振って、活動を活性化させる必要がある。</p> <p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の設定や仕組みの構築。 ・部員の人数の再検討と、業務分担の割り振り検討。
	教育相談体制の充実を図る。	教育相談体制を整備し、生徒の様々な悩みを受け止め、指導できる体制を確立する。 ④	A	
	カウンセラーを有効に活用する。	カウンセラーを有効に活用することで、生徒のケアを行う。 ④	A	
	職員間の連携を図る。	生徒情報を共有し、複数の教職員で生徒をサポートする。 ④⑤	B	
進路指導部	進路意識の向上を図る。	学年と連携して進路ガイダンスを実施し、生徒の希望進路実現に役立てる。 ⑨	A	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路実現のために生徒の自主的な取り組みを促す。 ・コミュニケーション能力不足の生徒への指導方法の確立 ・ICT利用による業務効率化 <p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3学年団との連携により開かれた進路室があり、特に担任が生徒のために積極的に動ける環境を土台とする。
		進路実績を公開し、保護者や生徒とデータを共有し、進路意識の向上に役立てる。 ⑨	B	
		適性検査を実施し、客観的な自己評価を通して進路選択に役立てる。 ①⑩	A	
		オープンキャンパス等への参加を促し、各自に合った進学を実現させる。 ⑩	B	
		工場見学及びインターンシップを通して職業観・勤労観を育成する。 ⑨⑩	B	
	進路達成の充実を図る。	必要に応じた情報の提供に努める。閲覧室を有効に活用する。 ⑨⑩⑬	B	
		生徒への面接指導の充実のために、職員の研修を計画する。 ⑨⑬	B	
		書類作成における留意点の周知徹底、IT利用による利便性の向上に努める。 ⑬	A	
	希望進学先・希望就職先についての事前研究を徹底させる。 ⑩	B		
特別活動部	生徒会活動・学校行事等の活性化を図る。	コロナ対策をしながら生徒会役員が中心となり、各クラス・各専門委員会と連携をとりながら、より良い学校生活をおくれるように工夫・改善をし、学校行事等を実施する。 ⑦⑧⑬	B	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナで休止していた行事等の通常化 ・生徒の意見を取り込んだ行事の運営 <p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に生徒の活動の活性化を促していく。
	部活動の活性化を図る。	積極的に部活動紹介を行い、各部活動の取り組み等の強化を図り、企業のニーズに答えられるように指導をし、部活動加入率の向上に努める。 ⑦⑧⑬	B	
	各生徒会専門委員会の活動の向上を図る。	各専門委員会の年間活動を検討し、生徒会とも連携をとりながら活動を充実するように努める。 ⑦⑧⑫	B	
	キャリア・パスポートを用い、体験学習・ボランティア活動等の推進を図る。	総工版キャリア・パスポート用い、体験学習やボランティア活動等に対し、生徒の意識の向上や活動が充実するように努め、生徒自身が自己評価を行い自らの発達を促す。 ⑦⑧⑫	B	
図書視聴覚部	図書室の整備、図書室活用の活性化を図る。	図書室利用の円滑化をはかり、読書や勉強するのに適した環境を作る。 ⑧⑬	B	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室の利用者を増やし、本の貸出冊数を増やす。 <p>【取組の方向性】 図書室は常に会館しており、図書の購入希望も受け入れているが、利用者が増えないのでその解決策を探る。</p>
		「図書だより」を刊行して、生徒が読書に興味をもち、読書の習慣がつくようにする。 ①⑧	B	
	視聴覚環境の改善を図る。	視聴覚室利用の円滑化を図る。 ⑦⑧⑬	C	

保健厚生部	心身の健康指導に努め、規則正しい生活習慣の向上を図る。	健康診断を通して、生徒の健康管理に努め、生徒の基本的な生活習慣をつくる。 ④	B	B	・避難訓練において、救助袋を利用した避難訓練と消火器の使用訓練ができなかった。 【取組の方向性】 救助袋と消火器の使い方を取り入れた避難訓練の実施を計画する。
		マスク着用の徹底、食事における感染防止マナーなど感染症の予防に努める。 ④	C		
	学習施設環境の向上を図る。	学校敷地内の整備と美化に努めながら、安全で安心して学べる学習環境を確保する。 ⑦	C		
		エアコン、扇風機、ストーブなどの安全な使用と管理を行う。 ⑦	B		
防災教育の充実を図る。	防災避難訓練を通し、生徒の防災意識を高める安全教育を行う。 ⑧	A			
渉外部	PTA 行事の参加率向上を図る。	P T A 総会、支部別 P T A 等の内容検討。参加教員の意識向上を図る。 ⑪	B	B	・PTA 会則等の見直し。 【取組の方向性】 活動を維持しながら、少子化への対応するための P T A 組織を精選し、スリム化を図る。
	PTA 研修会の充実を図る。	各支部の支部長と連絡を密に、具体的な実施内容を決定する。 ⑪	B		
	学校 Web ページの活用を図る。	保護者への連絡を徹底するための情報伝達システムの構築を図る。 ⑪⑬	B		
第一学年	挨拶、身だしなみ(頭髪、服装)、時間厳守などの基本的な生活習慣を身につけさせる。	学校生活の中でルールや基本的な生活習慣の大切さを学ばせる。 ④⑦	A	B	・頭髪服装検査において各学年によって髪型や長さの違いがあり、統一することが課題と思われる。 【取組の方向性】 学年、各科とも基礎学力向上を考えたとき時間の必要性が取り組みに影響をされる。
		積極的に資格取得へ取り組む姿勢を促す。 ③	B		
		個々に学校生活の中で目標を持たせる。 ⑦	B		
	基礎学力の向上を目標とし個々の生徒達の学力、やる気を引き出して生徒の学力底上げを充実させる。	進路指導を充実させ、就職、進学に対する意識づけをする。 ⑦⑨	B		
		今日の学校での授業に対する復習することの大切さを教える。 ①	B		
専門教科に関する基礎学力の底上げ ①③	B				
第二学年	基本的な生活習慣を確立し、「社会人基礎力」を育成する。	出席状況・服装など生活全般について自己検証を行わせ、規範意識を高める。 ④	B	A	・在籍生徒の卒業時の進路決定 100%。 【取組の方向性】 ・基礎学力の向上。面接対策への早期取組。自主的な進路選択決定。
		挨拶の励行、他者との関わりの中で、社会人として必要な資質を身につける。 ④⑨	A		
	基礎学力の定着を図り、「工業技術者」としての進路意識を高める。	実習や資格取得に取り組ませ、ものづくりを担う自覚を高める。 ③⑨	A		
		積極的にインターンシップに参加し、職業観を育成する。 ⑨⑩	B		
有意義な学校生活を送れるよう導く。	学校行事・修学旅行をとおして、自己の居場所・役割を見つけさせる。 ⑦⑧	A			
	自己の存在を肯定的にとらえ、他者をも大切にすることを育てる。 ⑤⑦	A			
第三学年	進路指導の充実を図る。	生徒一人ひとりの進路実現のために段階的かつ適切な指導を行う。 ⑨⑩	A	A	・生徒全員が進路決定 100%を目指し指導しているが、実際には難しい。 【取組の方向性】 ・学校生活において、保護者及び生徒との個別面談指導をこまめに実施する。
		各種適性検査を有効活用し、計画的な面接指導を行う。 ⑨⑩	B		
	基礎学力の向上に努める。	進路実現のために自ら学習に取り組む姿勢を育てる。 ②③	B		
		ホームルームの活用、各教科との連携を通して、卒業後に必要な基礎学力の向上を図る。 ①	A		
	人間性の育成を図る。	規範意識の高揚を図り、社会人となる自覚と責任を持たせるための指導を行う。 ④⑥	B		
学校行事や校外活動への積極的参加を促す。 ⑦⑧⑫	A				
基礎・基本の指導の徹底を行い特に技術力の向上を目指す。	「実習」を通して、基礎・基本をしっかり身につけさせる。また、ものづくりの面白さを体験させ、企業が必要とする工業についての確かな技術を有する人材を育成する。 ①③⑩	B	B	・専門教科へ関心を持ってもらうため「工業」からのアプローチ的な授業である「工業基礎」の授業内容の	
		企業の求める人材を育成するため、インターンシップに参加させる。 ⑨⑩			A
	勤労観・職業観の育成を図る。	「課題研究」を通して、学習への成就感・達成感を体得させる。また、発表会を行いプレゼンター			B

機械科		シヨン能力の向上を図る。	②③⑧		B	改善と具体化。 【取組の方向性】 生徒個々の興味関心・技量に見合った指導。全体指導と個別の指導をより丁寧に指導し授業に取り組む。
	資格取得指導の充実を図る。	指導法を工夫して合格率向上を図る。	①②③⑬	B		
		資格取得を継続的にを行い、生徒の進路実現に向けた支援を行う。	③⑨⑬	B		
	地域との連携を強化する。	地域イベントに積極的に参加し、本校をPRするとともに参加生徒の積極性や社会性を育成する。	②⑫	B		
出前授業を継続し、地域との連携を図る。		⑨⑫	A			
電子機械科	基礎・基本の徹底と個別指導による学力の向上を目指す。	きめ細かな指導を行い、基礎的な理論の定着を図る。	①	B	B	・専門科目における基礎学力の定着を図る指導方法 ・座学と実習の連携 【取組の方向性】 ・ICT機器を活用した、ふりかえり学習の充実 ・ICT機器による座学と実習の学習内容の関連付け
		知識の理解度や計算能力の達成度を把握し、個に応じた授業展開に努める。	①②	B		
		座学と実習を連携させることで、理論と実際の事象の関連をわかりやすく説明する。	①③	C		
	資格取得指導の一層の充実を図る。	学科に関連する資格の情報を提供し、適性に応じた資格取得に対する意欲の高揚を図る。	③	B		
		個に応じた指導を行い、資格取得に向けた指導の充実を図る。	②③	C		
安全の確保や事故の防止に努める。	安全教育の実施及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める。	⑥	A			
電気科	専門教科の指導向上を図る。	ICTを活用し、効率的に生徒に対して学習指導をする	①③	B	B	・生徒用タブレットは実習棟では使用できないため、実習等のWIFIの整備が必要 【取組の方向性】 専門教科の課程の見直し 実習項目の見直し
		各専門教科を通して、「ものづくり」の基本を学び、達成感を得られるような、適切な教材の作成に努める。	③	B		
	資格取得指導の充実を図る。	生徒一人一人の進路希望、適性に応じた資格取得に対する意欲の高揚を図る。	③⑩	A		
		能力に応じた指導を行い、生徒が希望した資格取得に向け合格率の向上を図る。	③⑩	B		
	地域との連携を強化する。	地域の関係機関との連携を図り、積極的に「ものづくり」事業へ参加し、工業高校をPRする。	⑫	B		
	基本的な生活習慣の確立を図る。	実習などの少人数授業を活用し、生徒との関わりを通して、実社会において必要な教育の指導充実を図る。	④	A		
国語科	読む力をつける。	教科書の本文を音読・黙読させ、内容に目を通させる。	①	A	B	・基礎学力をつける ・タブレット入力のためにローマ字教育を行う。 【取組の方向性】 ・読解力を養う。 ・語彙を増やす。
		文章の内容を理解するための課題を解決させる。	①②	A		
	書く力をつける。	他の人が正しく読み取れるような文字を書けるように指導する。	①	A		
		漢字や語彙を増やして、適切な文章が書けるように、学習活動を促す。	①	B		
	話す力をつける。	伝達したい事柄を正しく相手に伝えられるように適切な言葉を選ぶ。	①②	B		
相手に応じて話し方を工夫する。		①②	B			
地歴・公民科	基本的な事項・事柄を精選した授業を展開し、社会に関する基礎的な知識を身につけさせる。	具体的事例や時事問題を取り上げるなど、生徒が理解しやすい授業の展開・工夫に努める。	①②	B	B	・計画的な授業展開 ・各単元での振り返り ・生徒の深い学びにつなげる授業展開 【取組の方向性】 ・カリキュラム・マネジメン
		生徒が主体的に学習へ取り組めるような魅力的な教材の開発を積極的に行う。	①②	A		
		生徒が学びを実感できるよう、学習内容の振り返りを積極的に行う。	①②	B		
	社会的事象及び歴史的事象に対する関心を高める。	効果的にICTを活用した学習を行う。	①②	A		
視聴覚教材の積極的な活用を図る。		①②	B			

					トに基づいた授業展開
数学科	基礎計算力を高める。	計算過程の復習を繰り返し、基礎計算の練習をする。 ①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着 進学者への対応 工業高校生徒にあった授業展開 【取組の方向性】 <ul style="list-style-type: none"> 反復練習の強化 課外授業の定着 工業科へのヒアリング
		課外授業や補習授業を行い、個別指導の充実を図る。 ①②	B		
	数学的思考力をつける。	プリントによる問題演習や小テストを実施し、生徒が自ら取り組める環境を充実させる。 ①②	B		
		生徒が数学検定を受けられる環境を作り、生徒の学習活動を促す。 ②③	C		
理科	理科への興味関心を高める。	身近な話題や工業科目との関連を意識した題材を取り上げ、理科への興味・関心を高める。 ①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの学力、興味レベルの向上や各単元における知識の習得。また、生徒主体の実験観察授業の展開。 演示実験を多くするための研修時間を確保する。 【取組の方向性】 <ul style="list-style-type: none"> 実験器具やインターネットを活用し興味関心の持てる授業展開を目指す。 生徒からのフィードバックに耳を傾けていく。
	学習に向かう姿勢を育成し、基礎的学力、基本的な知識の確実な定着を図る。	授業態度や課題提出の指導を強化し、授業に臨む意識や態度の向上を図る。 ①②	A		
		「科学と人間生活」においては、科学的な一般常識の修得に重きをおいた授業を展開する。 ①	A		
	科学的思考力を養成する。	小・中学校レベルの内容に戻りながら、基本的な法則や公式の確実な修得に重きをおいた授業を展開する。また googleform を活用し生徒の理解度を確認しながら授業をすすめる。 ①	A		
		実験・観察や問題演習を通して、科学的に考える力や知識を活用する力を養わせる。 ①	B		
	生徒の能力に応じた指導を行う。	成績不振の生徒には補習を定期的に行い学力の向上を図る。 ②	B		
工業科と連携し、工業系資格の合格者数の増加を目指す。 ③		B			
保健体育科	服装指導の徹底を図る。	授業開始時、服装の乱れを指摘しチェックを行い、規範意識の高揚を図る。指定の体操服を着てこない生徒には、毅然とした態度で接して徹底を図る。 ④	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの体力レベルの向上や各種目における技術の習得。また、生徒主体（審判含む）の授業を展開。 【取組の方向性】 <ul style="list-style-type: none"> タブレットを利用した授業の展開。客観的な視点からのアプローチ
	運動技能と体力の向上を図る。	自己の能力に応じた運動の課題に対し、適切な指導・アドバイスを行う。 ②	A		
		各種競技に関連する運動を積極的に授業に取り入れ、生徒の体力レベルを昨年度以上にする。 ①②	B		
	感染症対策を徹底させる。	運動時以外のマスクの着用を徹底させる。 ④	A		
		授業前後の用具の消毒及び、生徒へも消毒の徹底をさせる。 ④	A		
自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育む。	的確な思考・判断に基づいて適切な意志決定を行い行動選択ができるよう、保健の授業を通じてさまざまな知識や情報を伝達し、理解を深めさせる。 ①	B			
芸術科（書道）	書の基本技術及び書写能力の向上を図る。	個々に応じた指導を積極的に行い、意欲的に取り組む姿勢を培うとともに、表現力や全体の構成力を養う。 ①②	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 技能・表現を高める為に、継続し、個々の指導に努める。 【取組の方向性】 個々の能力に合った指導を心掛ける。
		書への興味関心・感性を高め、書の伝統と文化についての理解を深める。 ①②	B		
英語科	基礎学力の向上を図る。	授業への取り組みに対する意識の向上に努め、基礎・基本を重視した指導に努める。 ①②	B	B	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な事項を重視した指導から、英作文や長文読解等の応用問題への発展。 生徒主体の ICT 活用。 実践的なコミュニケーション
		基礎的・基本的な事項を丁寧に説明し、わかる授業を行い、確かな学力を習得させる。 ①	B		
	授業内容の定着を図る。	プリント学習を通して問題演習を行い、学習達成状況や取り組みを確認する。 ①	B		
		ALT との連携、ICT の活用を通して、英語への興味・関心を高める。 ①	B		
	英語活用能力を養う。	生徒が四技能を活用する場面を設定し、総合的な英語運用能力を養う。 ①②	B		
	学習を通して英語に対する興味を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。 ①②	B			

					ン能力の育成。 【取組の方向性】 ・基礎学力の向上に努めつつ、英語活用能力を養う指導の工夫。 ・積極的にICTを活用し、英語への興味・関心を高める授業内容の充実。
家庭科	家族・家庭に関する知識と技能の習得を図るとともに、持続可能な社会の担い手としての倫理観と接遇意識を育む。	基礎的・基本的知識の定着と加速度的に変化する社会の情報を取り入れる能力を養う。① 実習において、Try and error の経験から技術の定着・やり抜く力 (GRIT) の向上を図る。また、学校生活から接遇について一緒に考え、倫理観を育てよう努める。ワークライフバランスについて一緒に考え、持続可能な社会の担い手となる人材の育成を図る。①②	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化 ・各単元での振り返り ・生徒のより良い主体的学習方法の改善 【取組の方向性】 <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力と倫理観、及びやり抜く力の育成 ・対話的学習における質の向上 ・継続的なタブレット教材の活用
	自己管理能力の向上を図る。	食育の観点から、生徒が主体的に望ましい食事バランスとは何かを考えられるよう努める。①④	A		
	わかりやすい授業の工夫に努める。	学習課題を明確にし、主体的・対話的な学習の手法を取り入れ、生徒が主体的に学習できるよう努める。①②	B		
		クラスルームやタブレット教材を活用し、生徒が主体的に学習できる授業改善に努める。①②	A		

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない